

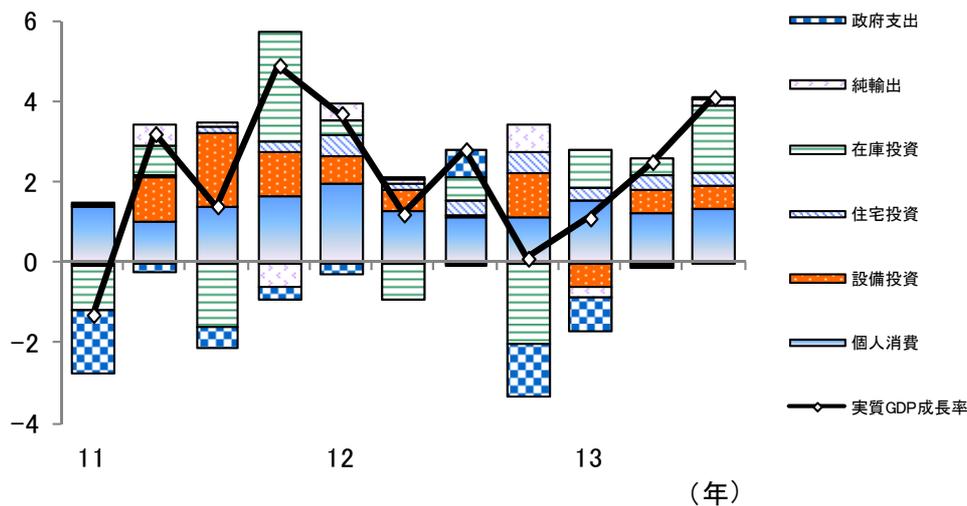
アメリカ経済グラフポケット (2014年1月号)

2014年1月10日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



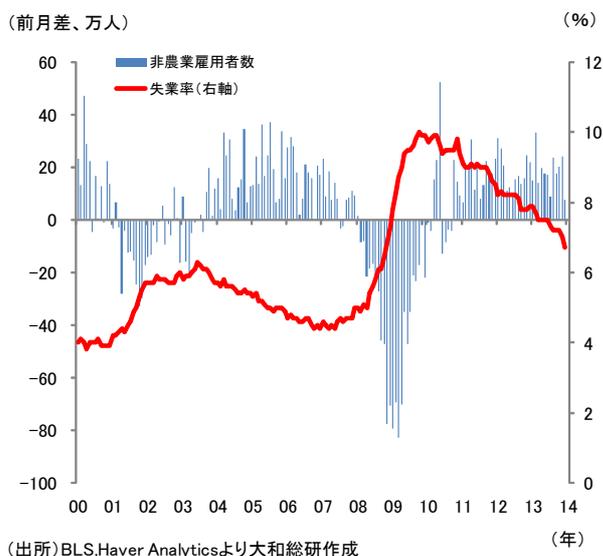
(前期比年率、%、%pt)	2011	2012				2013		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	4.1
個人消費	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	2.0
設備投資	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	4.8
住宅投資	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	10.3
政府支出	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4
輸出	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.9
輸入	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.4
寄与度								
個人消費	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4
設備投資	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.6
住宅投資	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3
在庫投資	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7
政府支出	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1
輸出	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5
輸入	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

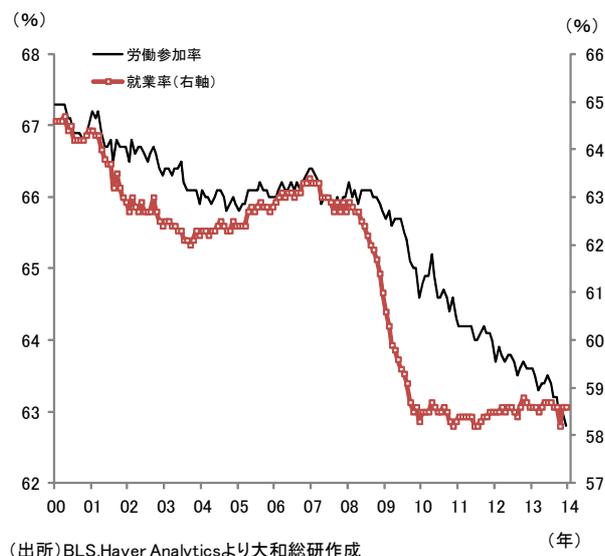
雇用環境

- ◆ 2013年12月の失業率は6.7%で、11月から0.3%ポイント低下した。2008年10月以来の低水準となったが、労働参加率の低下が影響した。
- ◆ 非農業雇用者数は、寒波の影響により前月差7.4万人増と、2011年1月以来最低の伸びとなった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.0万人増であった。

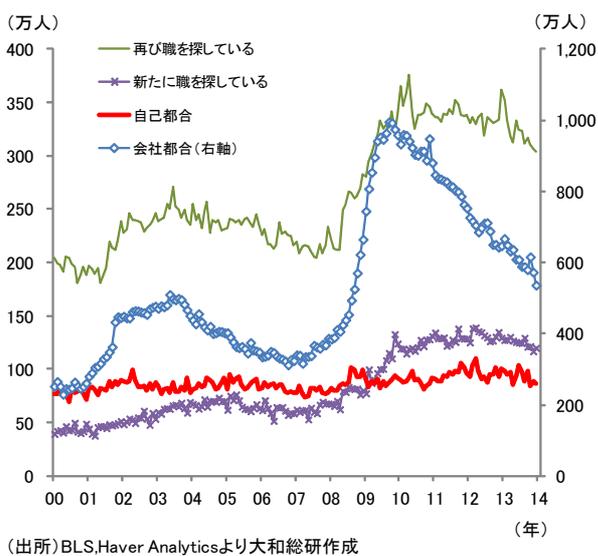
非農業雇用者数と失業率



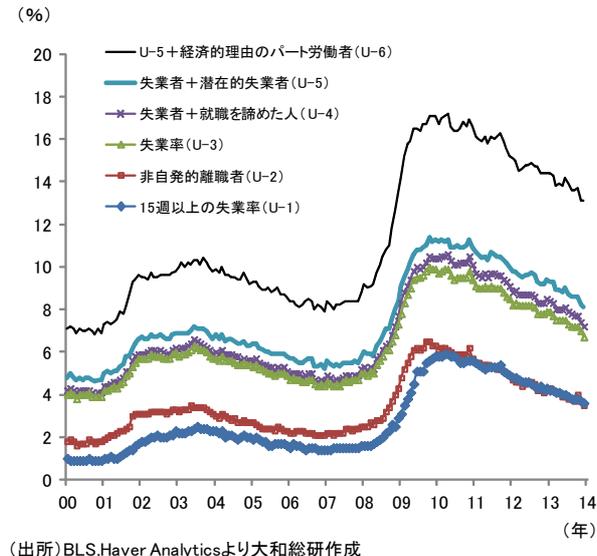
労働参加率と就業率



理由別失業者数



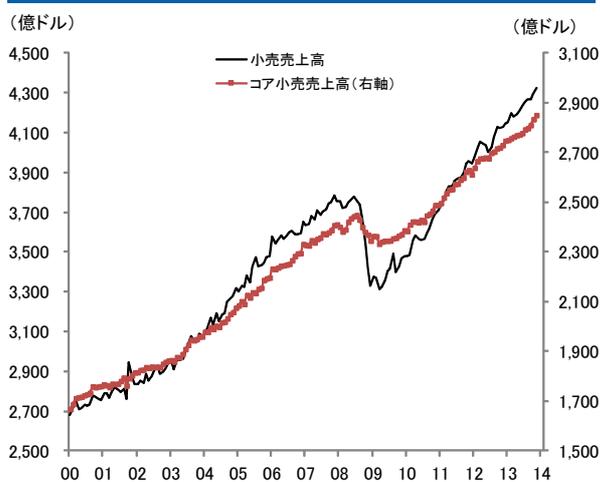
定義別失業率



個人消費

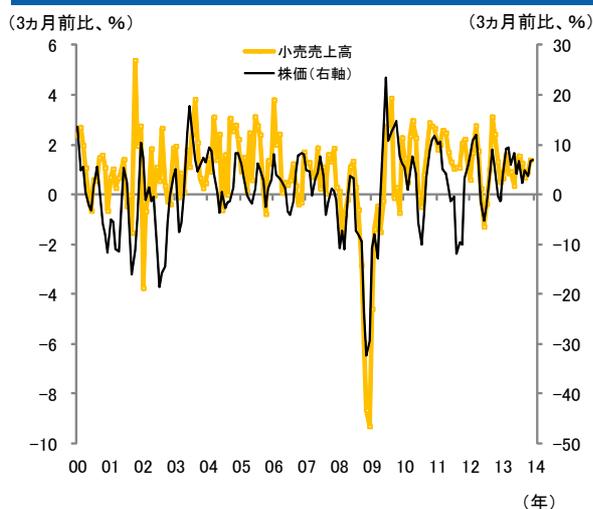
- ◆ 2013年11月の個人消費は、小売売上高が前月比0.7%増。2013年4月以来増加傾向が続く。コア小売売上高は同0.6%増で、2012年7月以来連続で増加している。
- ◆ 12月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは82.5と、2013年7月以来の高水準となった。
- ◆ 12月の自動車販売台数は、大幅に販売が増加した11月から前月比6.2%減となり、年率換算では1,540万台であった。2012年11月以来1,500万台以上を上回っている。

小売売上高の推移



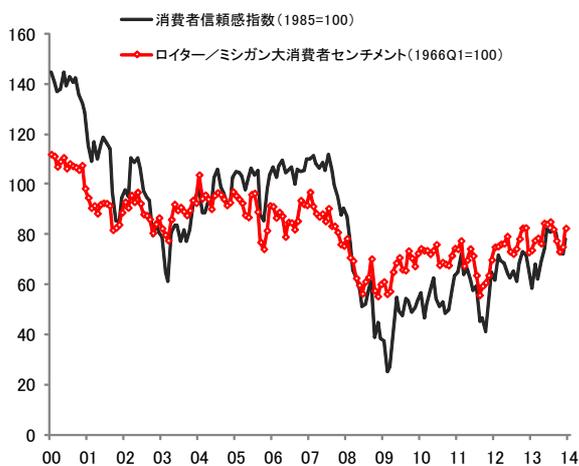
(注) コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



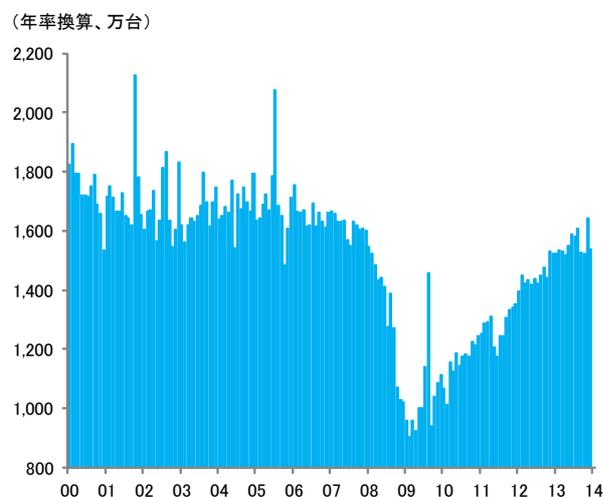
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

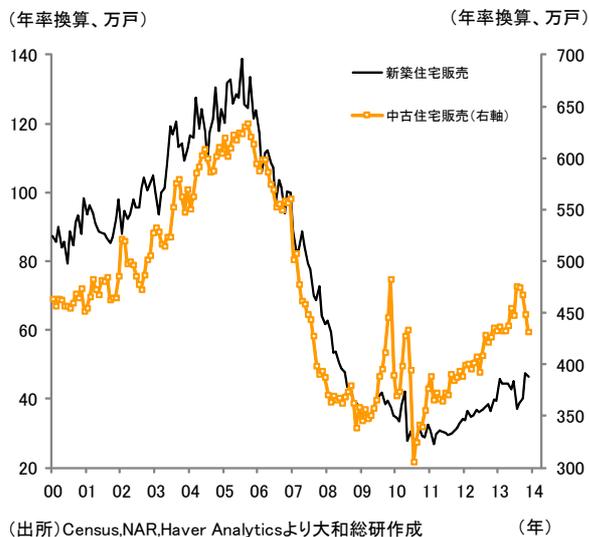


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

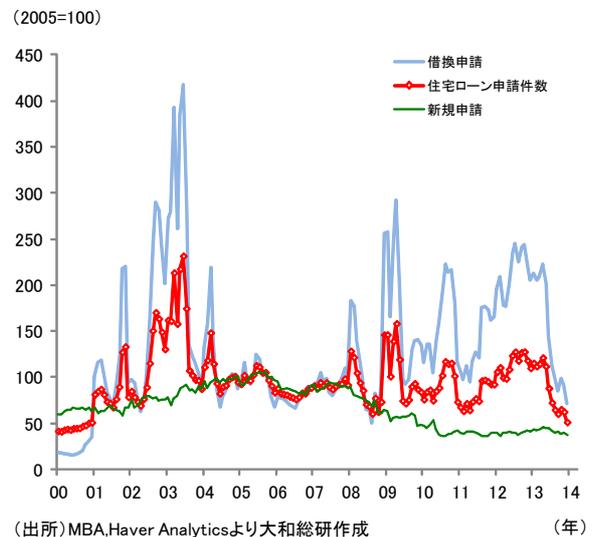
住宅市場

- ◆ 2013年11月の新築着工は前月比22.7%増と大幅に増加した。年率換算は109.1万戸で、2008年2月以来の高水準となった。
- ◆ 11月の中古住宅販売（一戸建て）は4ヵ月連続で減少し、前月比3.8%減の年率換算432.0万戸であった。住宅ローン金利の上昇と在庫不足、信用の引き締めなどが影響した。
- ◆ 11月の新築住宅販売は前月比2.1%減と、大幅な増加を示した前月から減少に転じた。年率換算は46.4万戸であった。
- ◆ 10月の住宅価格は引き続き上昇。しかし、住宅需要の鈍化により、住宅価格の前月比の伸び率は2013年前半に比べて縮小している。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年7月以来の高水準となった。

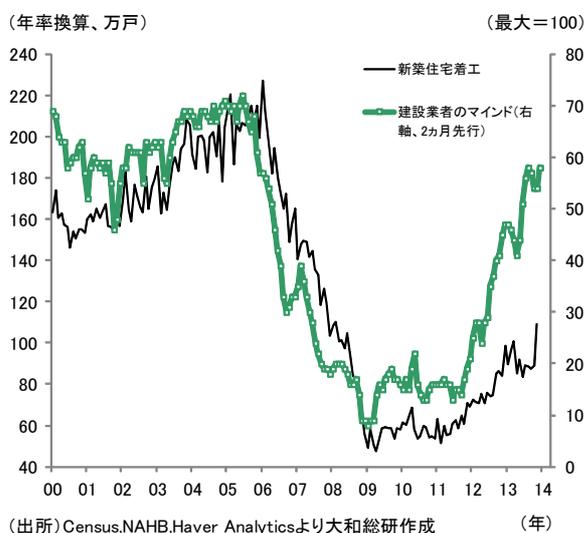
住宅販売（一戸建て）



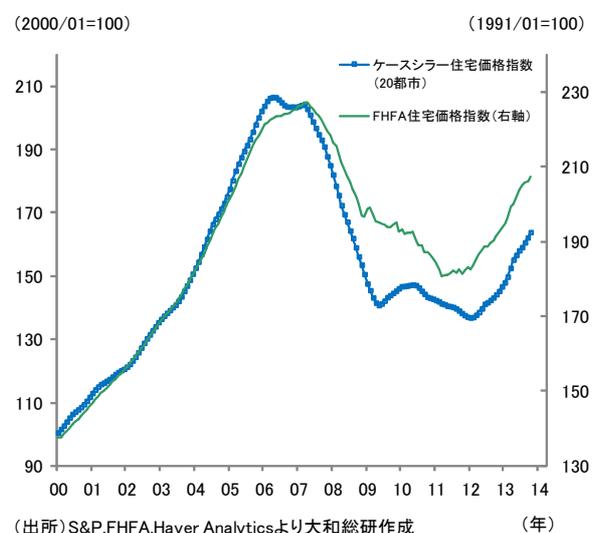
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者のマインド



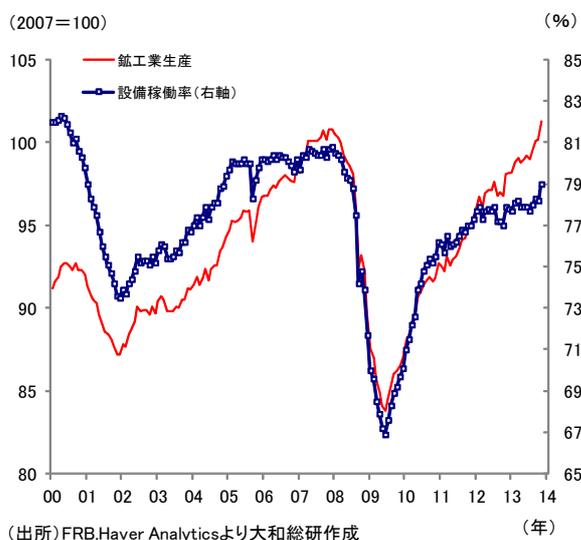
住宅価格



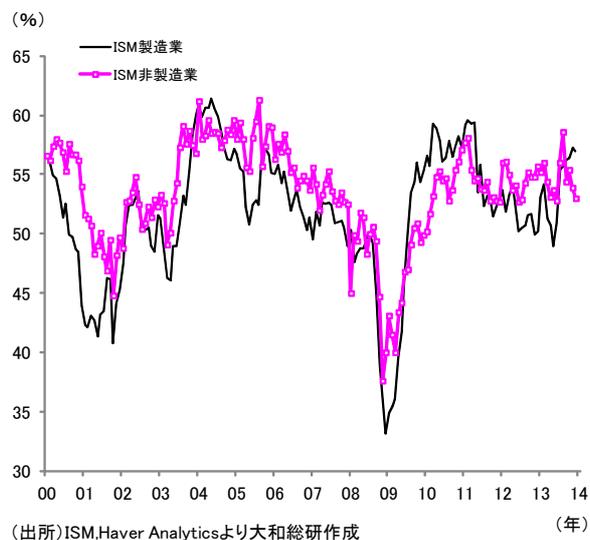
企業動向

- ◆ 2013年11月の鉱工業生産指数は前月比1.1%増で、2012年11月以来最大の増加幅となった。製造業も同0.6%増と、4ヵ月連続で上昇し、景気回復の勢いが増していることを示した。
- ◆ 11月の国防・航空機を除く資本財受注は、前月比4.1%増となった。
- ◆ 12月のISM製造業指数は、前月比0.3%ポイント低下。しかし、景気の拡大・縮小の分岐点である50%を7ヵ月連続で上回っている。非製造業指数も同0.9%ポイント低下したが、2010年1月以来4年間50%を上回っている。

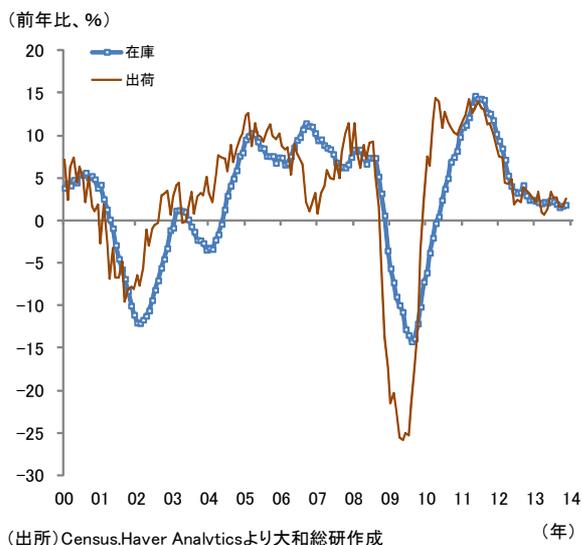
鉱工業生産と設備稼働率



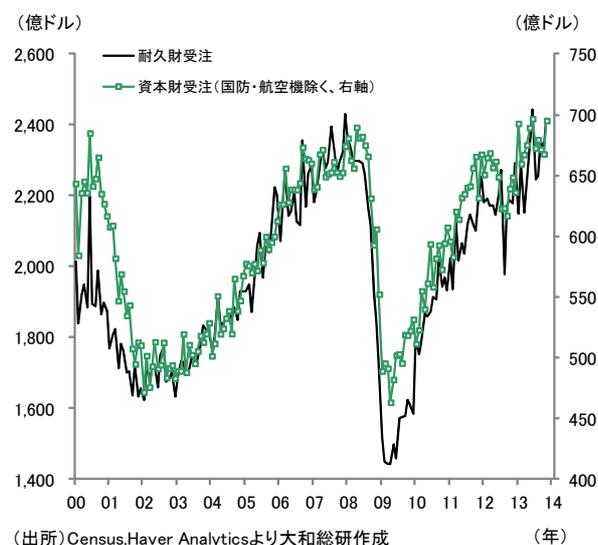
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



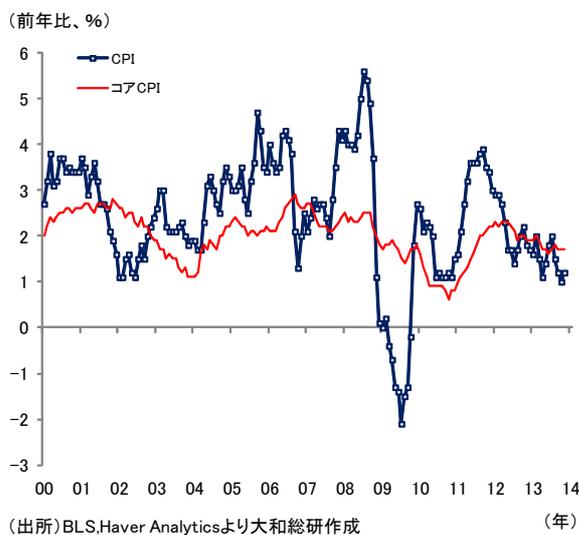
耐久財受注



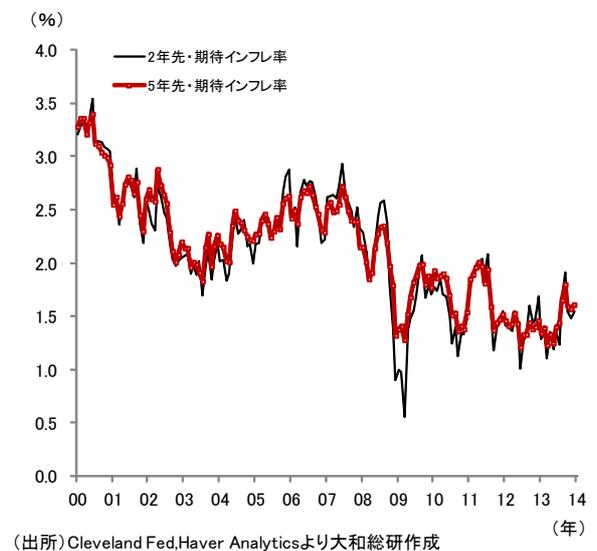
物価動向

- ◆ 2013年11月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.2%増で、コアCPIは同1.7%増であり、引き続き低水準である。
- ◆ 12月末のWTI原油先物価格は98.42ドル/バレルと、11月末の92.72ドル/バレルから上昇。

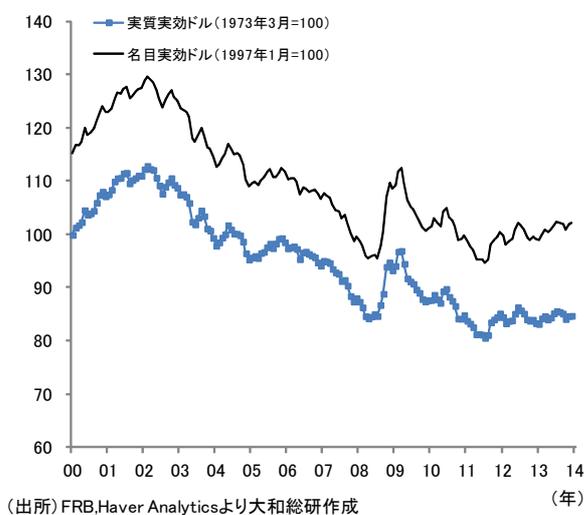
消費者物価指数



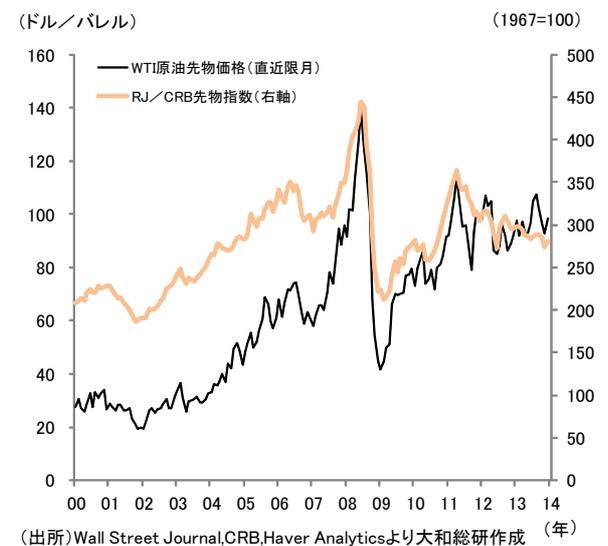
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



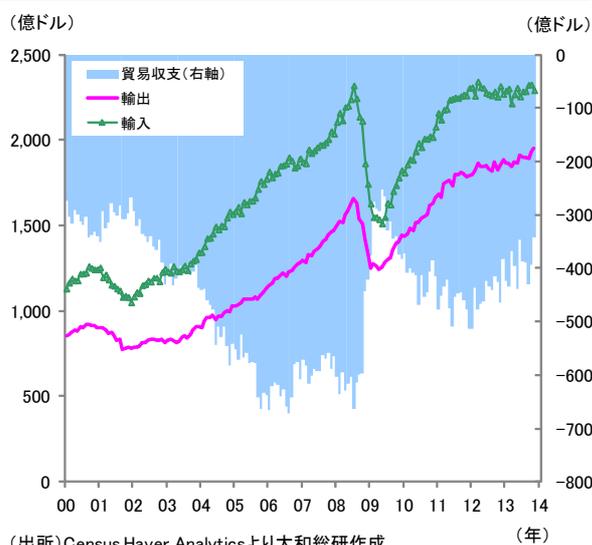
コモディティ価格



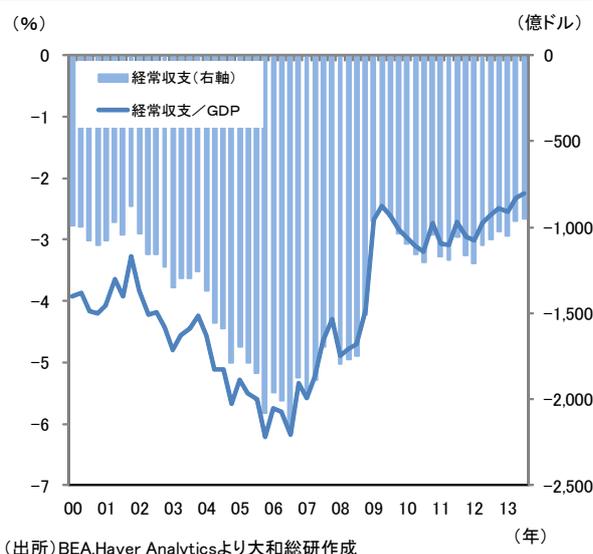
輸出入・経常収支

- ◆ 2013年11月の貿易収支（財・サービス）は前月比12.9%減で、約342.52億ドルの赤字に縮小した。2009年10月以来、約4年ぶりの低水準であった。
- ◆ 輸出は前月比0.9%増と2ヵ月連続で増加。輸入は同1.4%減で5ヵ月ぶりの減少。輸入の減少が貿易収支の赤字縮小に寄与した。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比24.5%増と、2ヵ月連続で前年比20%を上回る高い伸びとなった。欧州向けと日本向けの輸出も増加し、それぞれ同8.1%増、同1.8%増であった。輸入は、中国からの輸入が前年比1.4%増であったが、欧州と日本からの輸入はそれぞれ同3.8%減、同1.4%減となった。

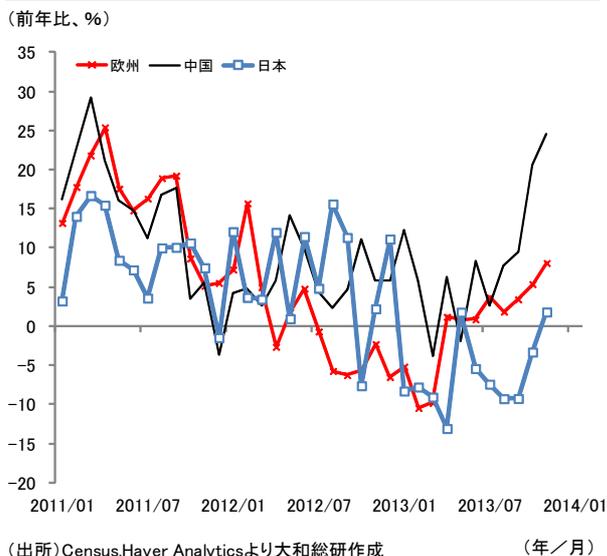
貿易収支動向



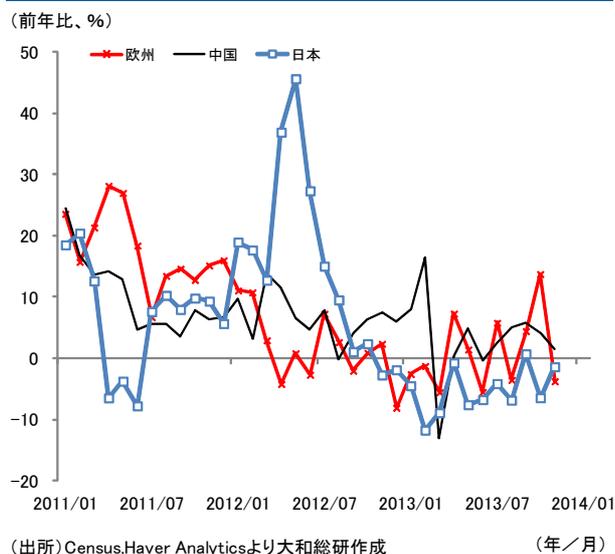
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



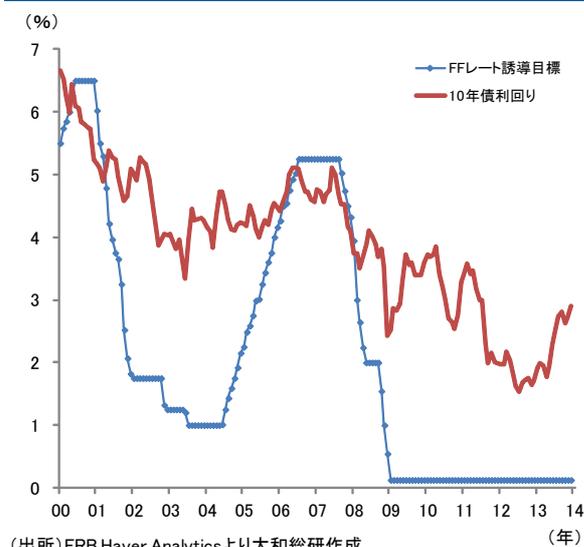
国・地域別輸入動向



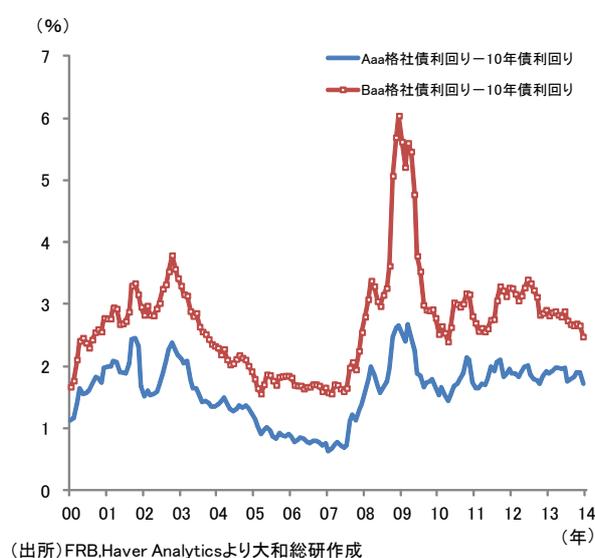
金融・財政

- ◆ 2013年長期金利（10年債利回り）の12月平均値は2.90%であった。2011年7月以来の高水準を記録した。
- ◆ 12月のFOMCにおいて、月額850億ドルの資産を買い入れるQE3（量的緩和第3弾）の縮小が発表された。2014年1月以降月額100億ドル減額され、750億ドルとなる。直近の1月1日の週平均はQE3を受けてFRBの資産残高増加が続き、約4兆700億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

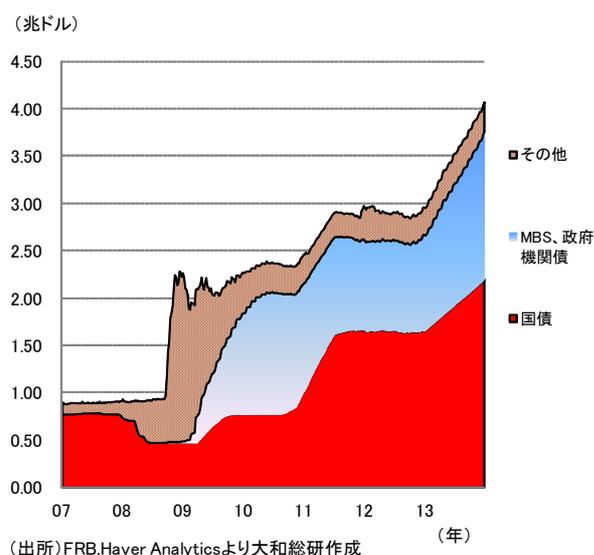
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

